

取扱説明書

ワイヤレス受信機

品番 WX-RJX800A



保証書別添付

このたびは、ワイヤレス受信機をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」(6ページ～8ページ)は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

商品概要

WX-RJX800A（以下、本機）は、FPU-2帯（779 MHz～788 MHz）対応の2波用ダイバシティ受信機です。

- 番組制作や報道取材などの音声集音に適しています。
- 800 MHz帯の採用により、コンピューターの雑音や調光コントロール、都市雑音などの影響を受けにくくなっています。
- PLLシンセサイザー方式の採用により、AX帯（FPU-2帯）71波から希望の2波の周波数を選択できます。
- 側面表示を設けていますので、カメラアタッチメントWX-ZJ870A（別売品）を用いて、本機をカメラに設置したときに、側面からでも受信状態を確認できます。
- レベルスケルチを解除／2 dB／12 dBから選択でき、トーンスケルチの設定／解除を切り替えることができるため、使用現場にあった設定が可能です。
- 電源は、単3形乾電池4個またはDC12 Vの外部電源を使用できます。チューナー1・チューナー2の同時連続使用を行った場合、松下電器産業株式会社製アルカリ乾電池4個で約7時間の使用が可能です（常温25℃使用時）。
- グループ・チャンネル表示には、見やすいLED（発光ダイオード）を採用しています。
- モニター端子にステレオヘッドホンを接続することにより、音声出力を確認できます。
- 電池ホルダーは、ワイヤレス受信機WX-RJ700A、WX-RJ800A（別売品）と共用できます。

※ 本書に掲載している別売品の品番は、2006年6月現在のものです。

付属品をご確認ください

ショルダーケース	1個
フレキシブルアンテナ	2個
電池ホルダー（予備）	1個
取扱説明書（本書）	1冊
保証書	1式

免責について

弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

- ① 本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ② お客様の故意や誤使用、不注意による障害または本商品の損傷など
- ③ お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず発生した一切の故障または不具合
- ④ 本商品の故障・不具合および設定・設置の誤りを含む何らかの理由または原因により、運用ができないことで被る不便・損害・被害
- ⑤ 第三者の機器等と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
- ⑥ 第三者の機器から発せられる電波により、本商品が使用できないまたは使用できないことによる不便・損害・被害
- ⑦ 故意または偶然の結果、通話内容が第三者に傍受・漏えいすることによる不便・損害・被害
本商品の無線通話はアナログ方式を採用しており、傍受を抑止する機能はありません。故意または偶然の結果、第三者が傍受し、通話内容を知り得ることがあります。

用語について

本書では、以下の用語を用いて説明しています。

受信機

ワイヤレスシステムにおける、電波を受信する機器の総称です。本書の中では、本機を含めたワイヤレス受信機のことを指します。

送信機

ワイヤレスシステムにおける、電波を送信する機器の総称です。

ダイバシティ方式

複数のアンテナで受信した信号のうち、電波の安定している側の信号を採用する方式です。本機では、A系とB系のそれぞれに受信部を持ち、安定した信号を選択して受信します。

PLL (フェーズロックドループ) シンセサイザー方式

自動的に周波数のずれを修正し、安定して信号を受信する方式です。

スケルチ機能

受信待ち状態のときに、あらかじめ設定された条件によって受信する電波を自動的に制限し、必要な信号のみを受信する機能です。受信状態のことを「スケルチが開いた状態」と表現し、逆に受信していない状態は「スケルチが閉じた状態」と表現する場合があります。

本機には、RAMSAシリーズの送信機からの特定周波数を含まない電波を回避する「トーンスケルチ機能」と、受信感度を下げることによって混信してくる弱い電波を回避する「レベルスケルチ機能」の2つの機能があり

ます。

バンド

本機で受信する周波数帯域のことです。本機では、FPU-2帯に対応するAX帯をXLバンド・XHバンドとし、2バンドからバンドを選択します(33ページの「FPU (フィールドピックアップユニット) 帯域とバンドの関係」をお読みください)。

グループ

各チャンネルの受信周波数を、同一場所で混信しないように、あらかじめ選択し、組み合わせたものです。使用目的や環境に合わせて選択します。

チャンネル

同一グループ内で、同時に受信可能な周波数に番号をつけたものです。1チャンネルに1周波数が割り当てられ、本機1台で、2チャンネルの受信が可能です。単に周波数を数えるときは、1波、2波・・・と数えます。

多チャンネル

送信機を同時に8台以上使用する設定です。1つのバンドで同時に使用できるのは7波までのため、8波以上を使用する場合には複数のバンドを組み合わせる、多チャンネルを使用します。本機を使用してシステムを組むと、最大10波を同時に使用できます。詳しくは24~25ページをお読みください。

はじめに

商品概要.....	2
付属品をご確認ください.....	2
免責について.....	3
用語について.....	4
安全上のご注意.....	6
使用上のお願い.....	9
各部の名前と働き.....	11

使いかた

アンテナの接続.....	15
音声出力コネクターの接続.....	15
電源の準備.....	16
乾電池を入れる/取り出す.....	16
外部電源を接続する.....	18
使用するチューナーの電源を入れる/切る.....	19
使用するチューナーの周波数・スケルチを設定する.....	20
バンド・グループ・チャンネルを設定する.....	20
スケルチを設定する.....	22
複数の送信機の同時使用について.....	24
チャンネルの使用状況を確認する(スキャン機能).....	26
受信レベル表示について.....	27
本機の状態を確認する.....	28
周波数を確認する.....	28
電源電圧を確認する.....	28
多チャンネル使用時のバンド・グループ・チャンネルを確認する.....	29
側面表示の使いかた.....	30

取り付け

本機をショルダーケースに装着する.....	31
モニターを接続する.....	32


補足


お買い上げ時の設定について.....	33
FPU (フィールドピックアップユニット) 帯域とバンドの関係.....	33
周波数表.....	34
故障かな!?.....	37
仕様.....	41
保証とアフターサービス.....	43

安全上のご注意 必ずお守りください


お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。


■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 **警告** この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

 **注意** この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
(下記は絵表示の一例です。)

 このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

 この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

屋外で使用のとき雷が鳴り出したら、体から離す



落雷の原因になります。

- ただちに使用をやめ、体から本機を遠ざけてください。

分解しない、改造しない



火災や感電の原因になります。

分解禁止

- 修理や点検は、販売店にご依頼ください。

警告

電池は充電・分解・ショートしない



禁止

電池の破裂や液漏れにより火災、けが、やけどの原因になります。

航空機内では電源を切る



運行の安全に支障をきたす恐れがあります。

医用電気機器に近づけない
(手術室、集中治療室、CCU※などには持ち込まない)



禁止

本機からの電波が医用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

- ※CCUとは、冠状動脈疾患監視病室の略称です。

心臓ペースメーカー装着者は使用しない



禁止

本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

心臓ペースメーカー装着者に配慮して、満員電車などの人混みでは電源を切る



本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

警告

自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しない



禁止

本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

異常があるときはすぐ使用をやめる



煙が出る、においがするなどそのまま使用すると火災の原因になります。

- ただちに、販売店にご連絡ください。

注意

電池は極性（プラス+とマイナス-）を正しく入れる



間違えると、電池の破裂や液漏れにより火災、けがや周囲を汚損する原因になります。

ニッカド電池は使わない



禁止

万一、内部が破損していた場合、発火の原因になります。

違う種類の電池や、新旧の電池は混ぜて使わない



禁止

電池の破裂や液漏れにより火災、けが、やけどの原因になります。

ぬれた手で使用しない



ぬれ手禁止

感電や故障の原因になります。

警告、注意に記載されている内容とともに、以下の項目をお守りください。

取り扱い上のおお願い

- 本機はFPU-2帯（779 MHz～788 MHz）で、RAMSAシリーズのトーン周波数32.927 kHzを含む送信機に対応しています。
- 本機内部にある各電気回路は、工場で各種の精密な測定器を用いて厳密に調整されておりますので、ねじをゆるめたり、改造したりしないでください。
- パワーアンプ、ビデオモニター、測定器などの発熱の多い機器の上や、夏の閉め切った車の中に放置しないでください。
- なるべく乾燥したところに保管してください。
- 高精度の調整がしてありますので、強い衝撃を受けたり、床などに落とすと特性が変化することがあります。取り扱いには十分ご注意ください。本機に衝撃などが加わると本機より衝撃音が発生し、出力されますので、衝撃を加えないようにしてください。
- 雨の中での使用や直接水のかかる場所では使用しないでください。
- 本機は、周囲温度0℃～+40℃の範囲で使用してください。+10℃以下になりますと、使用電池の寿命が短くなりますので、動作時間などに注意してください。
- 使用しないときは、必ず乾電池を取り出してください。液漏れの原因になります。
- 落下するとけがや故障の原因となりますので、高所で使用する場合は、取り扱い方法や固定方法に十分注意してください。また、付属のショルダーケースを使用する場合は、ベルトをケースフック金具に通し、ベルトフック部で抜け落ちないように正しく取り付けられていることを確認して使用してください。

上手な使いかた

クリック音の防止について

- 電源ON/OFF時はクリック音防止のため、ミキサーなど接続機器のボリュームをしぼってから行ってください。

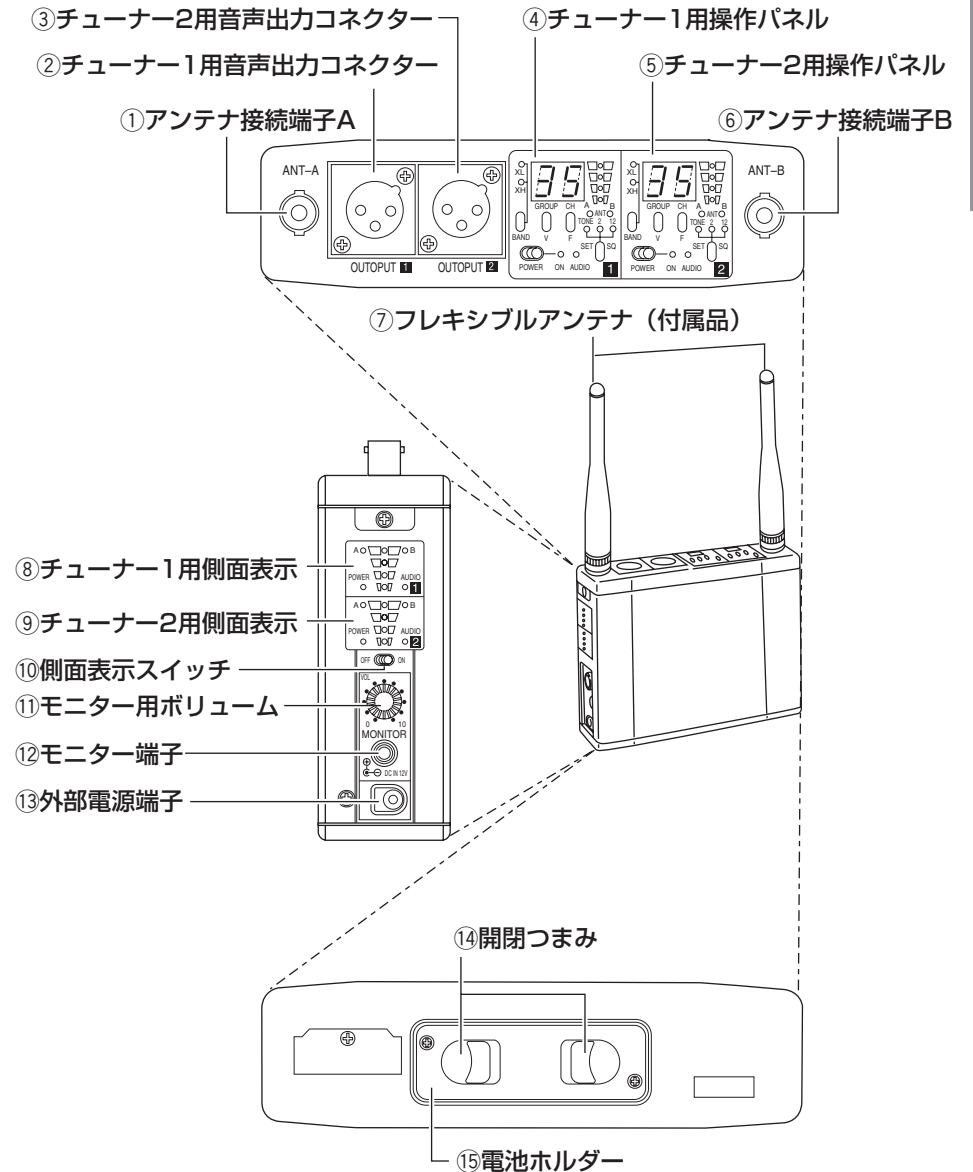
ご使用の際は

- 本機は、回転機、変圧器、自動車のイグニッション雑音の影響を受けにくい場所を選んで使用してください。
- 送信機と本機のあいだに、電波を吸収するコンクリートや大勢の人が入ると、受信レベルが低下し、到達距離が短くなります。
- ENG一体型カメラ使用時に、本機の実受信レベル表示が点灯する場合があります。そのままの状態で使用すると、受信感度が低下したり雑音が発生したりすることがあります。2ポイント以上点灯する場合は、カメラと本機の距離を離して使用してください。
- 本機のアンテナを布などで覆わないでください。アンテナの効率が低下し、到達距離が短くなります。
- 本機と送信機は同じ周波数を組み合わせて使用してください。
- 送信機を使用しないときは、使用しないチューナーの電源を切ってください。
- 多チャンネル使用の場合は、受信機間の干渉を避けるため、受信機間の距離を50 cm以上離して使用してください。
- 送信機同士の距離は50 cm以上離し、送信機と本機との距離は2 m以上離してください。周波数の干渉により混信を起し、耳障りな雑音が発生する恐れがあります。
- 本機内部のねじなどは絶対に触らないでください。特性の変化や故障の原因になります。

お手入れについて

- お手入れは乾電池を取り出し、電源プラグを抜いて行ってください。けがの原因になります。
- ベンジン・シンナーなど揮発性のものをかけたり、使用したりしないでください。製品が変色することがあります。
- 化学ぞうきんを使用の際は、その注意書きに従ってください。
- 付属のショルダーケースは乾いた柔らかい布でふいてください。汚れがひどいときは、水で薄めた台所用洗剤(中性)を柔らかい布にしみこませ、固く絞ってから軽くふいてください。
そのあと、乾いた柔らかい布で、洗剤成分を完全にふき取ってください。
- 乾電池の電極や電池ホルダーの端子は汚れた手で触れないでください。接触不良や雑音が発生する原因になります。
汚れたときは乾いた柔らかい布などでよく磨いてください。
また、電池ホルダー外側の接触端子は汚れが付きやすいので、定期的(月に1回程度)にエチルアルコールでふいてください。ベンジンやシンナーなどの溶剤や金属磨きなどの研磨剤を使用すると、変形・変色やメッキがはがれてきますので、使用しないでください。

■本体



各部の名前と働き (つづき)

① アンテナ接続端子A [ANT-A]

⑥ アンテナ接続端子B [ANT-B]
フレキシブルアンテナ (付属品) を接続します。(☞15ページ)

② チューナー1用音声出力コネクタ [OUTPUT1]

③ チューナー2用音声出力コネクタ [OUTPUT2]

キャノンタイプコネクタを接続します。(☞15ページ)

チューナー1で受信した音声を
②チューナー1用音声出力コネクタから出力します。

チューナー2で受信した音声を
③チューナー2用音声出力コネクタから出力します。

④ チューナー1用操作パネル [1]

チューナー1の設定や状態の確認を行います。(☞13~14ページ)

⑤ チューナー2用操作パネル [2]

チューナー2の設定や状態の確認を行います。(☞13~14ページ)

⑦ フレキシブルアンテナ (付属品)

電波を受信します。

⑧ チューナー1用側面表示

⑨ チューナー2用側面表示
チューナー1、2それぞれが受信している電波の強さや状態を確認します。確認できる表示については、14ページをお読みください。

⑩ 側面表示スイッチ

⑧チューナー1用側面表示と
⑨チューナー2用側面表示を使用するときにONにします。(☞30ページ)

⑪ モニター用ボリューム

モニター端子の出力音量を調節します。(☞32ページ)

⑫ モニター端子 [MONITOR]

ステレオヘッドホンを接続します。(☞32ページ)

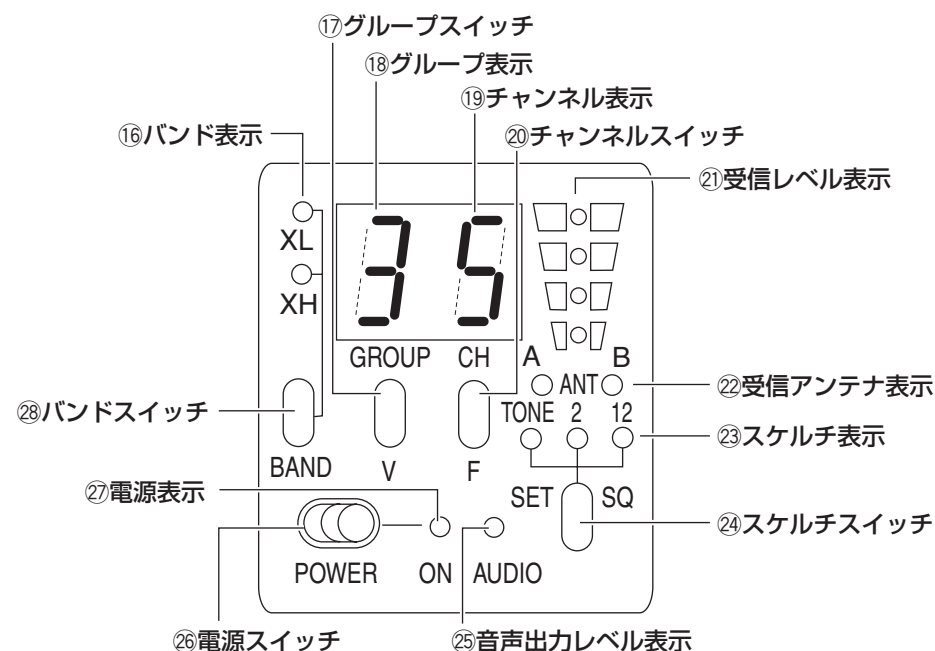
⑬ 外部電源端子 [DC IN 12V]

DC 12 V電源を接続します。(☞18ページ)

⑭ 開閉つまみ

⑮ 電池ホルダー
開閉つまみを両側からつまんで手前へ引くと電池ホルダーが外れ、乾電池を収納できます。(☞16~17ページ)

■操作パネル (チューナー1、チューナー2共通)



⑬ バンド表示 [XL] / [XH]
使用中のバンドを表示します。

⑭ グループスイッチ [GROUP] / [V]
使用するグループを選択します。(☞20~21ページ)

⑮ グループ表示 [GROUP]
使用中のグループを表示します。

⑯ チャンネル表示 [CH]
使用中のチャンネルを表示します。

⑰ チャンネルスイッチ [CH] / [F]
グループスイッチで選択したグループの中のチャンネルを選択します。(☞20~21ページ)

⑱ 受信レベル表示
受信している電波の強さを4段階で表示します。(☞27ページ)

⑳ 受信アンテナ表示 [A] / [B]
受信しているアンテナを表示します。A系アンテナで受信している場合は左側の表示が、B系アンテナで受信している場合は右側の表示が点灯します。

各部の名前と働き (つづき)

⑳ スケルチ表示

[TONE] / [2] / [12]
設定されているスケルチの状態を表示します。(☞23ページ)

㉑ スケルチスイッチ [SQ] / [SET]

スケルチの設定を選択します。(☞22～23ページ)

㉒ 音声出力レベル表示 [AUDIO]

音声出力のレベルを3段階で表示します。
最大出力レベル(最大変調出力)に対して
0 dB～-6 dB : 赤色点灯
-6 dB～-36 dB : 緑色点灯
-36 dB未満 : 消灯
(常温25℃使用時)

㉓ 電源スイッチ [POWER]

使用するチューナーの電源をON/OFFします。(☞19ページ)

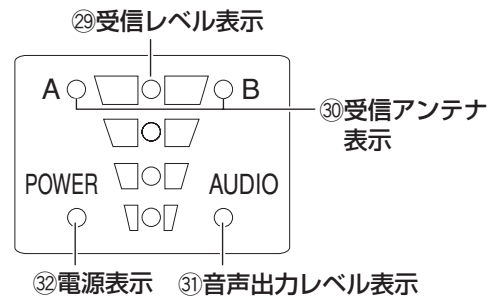
㉔ 電源表示 [ON]

使用しているチューナーの電源ON/OFF状態や本機の電池残量などを表示します。(☞16ページ)

㉕ バンドスイッチ [BAND]

使用するバンドを選択します。(☞20～21ページ)

■側面表示 (チューナー1、チューナー2共通)



㉑ 受信レベル表示

㉑受信レベル表示をお読みください。(☞13ページ)

㉓ 受信アンテナ表示 [A] / [B]

㉓受信アンテナ表示をお読みください。(☞13ページ)

㉔ 音声出力レベル表示 [AUDIO]

㉔音声出力レベル表示をお読みください。

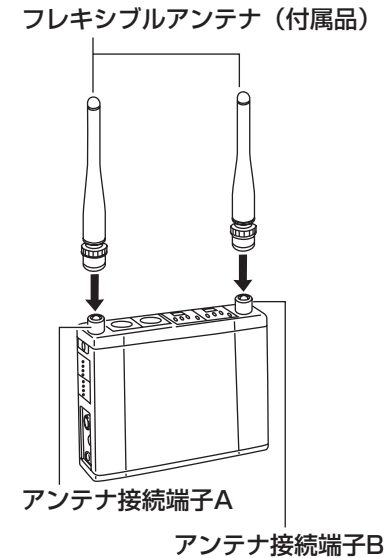
㉒ 電源表示 [POWER]

㉒電源表示をお読みください。

アンテナの接続

1 アンテナ接続端子A、アンテナ接続端子Bそれぞれに、フレキシブルアンテナ(付属品)を接続します。

- フレキシブルアンテナは、アンテナ接続端子を保護するために、使用しないときでもできるだけ外さないでください。



音声出力コネクタの接続

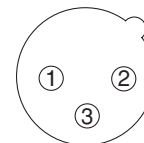
1 チューナー1、2用音声出力コネクタにキャノンタイプコネクタ(XLR-3-11C)をそれぞれ接続します。

- ミキサーなど接続機器のマイク入力端子に接続してください。

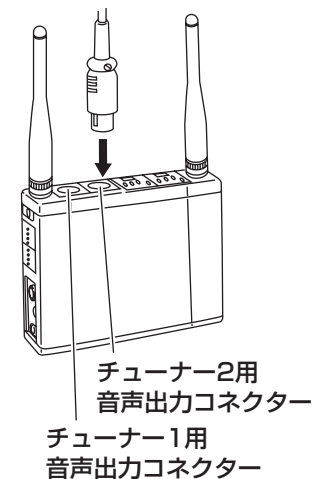
●音声出力コネクタ

チューナー1、チューナー2とも、ピン配列は同じです。

＜キャノンタイプコネクタピン配列＞



- ①GND (アース)
- ②ホット
- ③コールド



電源の準備

本機の電源は、乾電池または外部電源から供給することができます。
乾電池を使用する場合は、電池ホルダーに単3形乾電池4個を入れ、本機に取り付けます。
外部電源を使用する場合は、本機側面の外部電源端子にDC12 V電源を接続します。

乾電池を入れる／取り出す

乾電池を交換するときは、チューナー1、2の電源スイッチをOFFにしてから行ってください。乾電池が消耗してくると、雑音の出る恐れがあります。どちらかのチューナーの電源表示が赤色になりましたら、早めに新しい乾電池と交換してください。

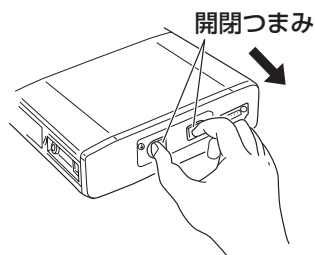
メモ

- 乾電池の電極や電池ホルダーの端子は汚れた手で触れないでください。接触不良や雑音が発生する原因になります。汚れたときは乾いた柔らかい布などでよく磨いてください。(P.10ページ)
- 使用しないときは、必ず乾電池を取り出してください。液漏れの原因になります。
- 乾電池の種類ごとに使用可能時間は変わりますので、下の表を目安にしてください。(松下電器産業株式会社製を常温25℃で連続使用した場合)

使用乾電池	電源表示	使用可能時間の目安
単3形アルカリ乾電池 (LR6G)	緑色 赤色	約30分以上7時間以下 約30分未満
単3形オキシライド乾電池 (ZR6Y)	緑色 赤色	約35分以上9時間以下 約35分未満
単3形マンガン乾電池 (R6PNB)	緑色 赤色	約15分以上2時間以下 約15分未満

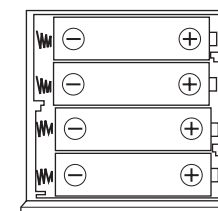
1 電池ホルダーを外します。

- 底面の開閉つまみを両側からつまんで手前にスライドさせると、電池ホルダーを外すことができます。



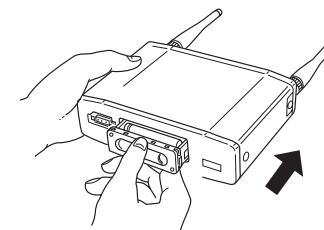
2 電池ホルダーに乾電池を入れます。

- 単3形乾電池4個を電池ホルダーの+、-の表示に合わせ、一側に押しながら挿入します。



3 電池ホルダーを元どおりに取り付けます。

- パチンと音がしてロックするまで、電池ホルダーをしっかり押し込みます。
※電池ホルダーはどちらの向きでも取り付けることができます。



4 乾電池を取り出すときは、乾電池を入れるときと同じ手順で電池ホルダーを外し、乾電池を取り出します。

- 乾電池を取り出すときは、乾電池を一側に押しながら、+側から取り出します。

予備の電池ホルダー（付属品）について

予備の電池ホルダーに、あらかじめ乾電池を入れておくと、使用中、電池残量が少なくなったときに乾電池の交換を円滑に行うことができます。

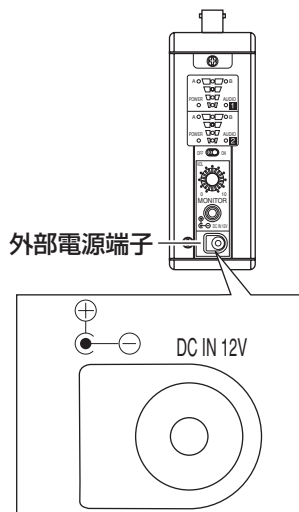
外部電源を接続する

DC12 V電源を外部電源端子に接続します。

● 接続可能電源プラグ

プラグ径：外径φ5.5 mm
 内径φ2.0 mm

極性：プラグの外側の電極を正 (+)
 中心電極を負 (-)



使
い
か
た

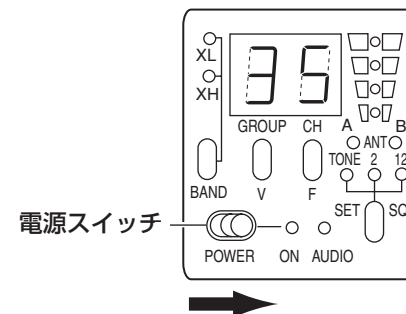
メモ

- 安全のため、DC12 V電源と外部電源端子の間には導体の径が1 mm以上のケーブルを使用し、DC12 V・300 mA~500 mAのヒューズを入れて使用してください。
- シガーソケットから電源を供給する場合に雑音が出ることがあります。エンジンを停止するか電源供給ラインにフィルターを入れて使用してください。
- 電源表示が赤色点灯中に外部電源端子から電源を供給しても電源表示は変わりません。
- 外部電源端子に接続する電源プラグの極性を間違えないよう、使用前に必ず確認してください。
- 使用しないときは、外部電源端子から電源プラグを抜いてください。
- 接続する外部電源の電流容量は、2 A以上のものを使用してください。

1

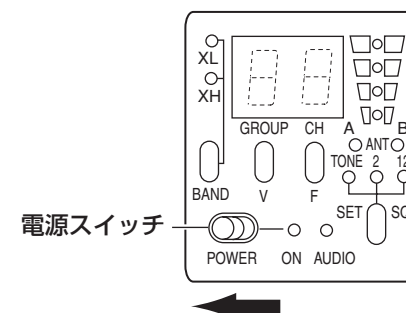
使用するチューナーの電源スイッチをONにします。

- 電源を入れると前回使用されていた設定状態で起動します。
- ※電源スイッチをONにしてから音が出るまで2秒程度かかります。



2

使用しているチューナーの電源を切るときは、電源を切りたいチューナーの電源スイッチをOFFにします。



使
い
か
た

使用するチューナーの周波数・スケルチを設定する

使用するチューナーが受信する周波数を設定します。設定する周波数は送信機と同じ周波数にしてください。送信機の設定については、送信機取扱説明書をお読みください。

送信機を複数使用する場合は、24～25ページの「複数の送信機の同時使用について」をお読みのうえ設定してください。

!!重要!!

- 設定完了前に、設定しているチューナーの電源スイッチをOFFにすると、設定内容が無効になります。
- スイッチは指で操作してください。ボールペンなど先のとがったもので操作すると、スイッチが破れて操作できなくなる場合があります。

バンド・グループ・チャンネルを設定する

バンド、グループ、チャンネルを設定して、受信する周波数を決定します。

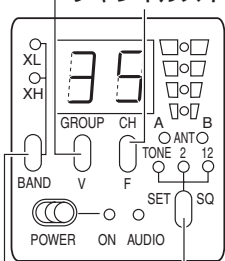
- 1 設定するチューナーの電源を入れ（19ページ）、スケルチスイッチを1秒以上押します。

- 設定変更モードになり、バンド表示、グループ表示、チャンネル表示、スケルチ表示が、現在の設定状態で点滅します。

!!重要!!

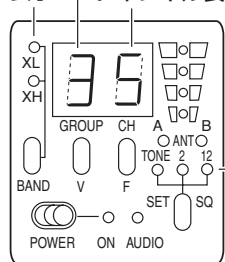
- 設定変更モードになったら、3秒以内に各スイッチを操作してください。3秒以上経つと、設定変更モードが終了します。

グループスイッチ
チャンネルスイッチ



バンドスイッチ
スケルチスイッチ

グループ表示
バンド表示
チャンネル表示



スケルチ表示

- 2 バンドを設定します。

- バンドスイッチを押すとバンド表示のみが点滅し、設定を変更できるようになります。
- 設定したいバンドのバンド表示が点滅するまで、バンドスイッチを繰り返し押します。

メモ

- XL・XHバンドが同時に点滅する設定があります。これは多チャンネルを示しています。多チャンネルについては24～25ページをお読みください。

- 3 グループを設定します。

- グループスイッチを押すとグループ表示のみが点滅し、設定を変更できるようになります。
- 設定したいグループが表示されるまで、グループスイッチを繰り返し押します。

- 4 チャンネルを設定します。

- チャンネルスイッチを押すとチャンネル表示のみが点滅し、設定を変更できるようになります。
- 設定したいチャンネルが表示されるまで、チャンネルスイッチを繰り返し押します。

- 5 設定を終了します。

- すべての設定が終了したら、3秒以上、何も操作しないでください。3秒以上経つと、表示が点滅から点灯になり、設定が完了します。
- 設定が完了したら、送信機の音声を正常に受信できることを確認してください。正常に受信できないときは、37ページからの「故障かな!？」をお読みのうえ、設定を再度確認してください。

使用するチューナーの周波数・スケルチを設定する (つづき)

スケルチを設定する

スケルチの設定には、特定周波数を含まない電波を回避する「トーンスケルチ」と受信感度を設定する「レベルスケルチ」とがあります。

トーンスケルチについて

スケルチ表示の [TONE] で、トーンスケルチの設定状態を表わします。点灯時は設定、消灯時は解除です。

- 設定：トーン周波数32.927 kHzを含んだRAMSAシリーズの送信機の電波を受信し、音声を出します。
- 解除：トーン周波数を含まない電波も受信し、音声を出します。

レベルスケルチについて

スケルチ表示の [2]、[12] でレベルスケルチの設定状態を表わします。[2] 点灯時は2 dB、[12] 点灯時は12 dB、両方消灯時は解除されています。

- 2 dB：2 dB μ V以上の電波を受信します。到達距離を優先させたいときに使用します。ただし、送信機との距離が離れると、混信が起きたりノイズが入りやすくなります。到達距離の目安は、送信機の送信出力設定が10 mWのとき約90 m程度です。
- 12 dB：12 dB μ V以上の電波を受信します。送信機を近くで使用する場合は、こちらの設定にしてください。混信やノイズを低減することができます。
- 解除：2 dB μ V未満の電波も受信します。電波を何も受信していないときには過大な雑音が出力されますので、雑音があっても受信を優先する場合や、不要な電波の所在を確認する場合以外は、レベルスケルチを解除しないでください。

!!重要!!

- レベルスケルチが解除されていると、電波を何も受信していないときに過大な雑音が出力されます。電波を受信していない状態でレベルスケルチを解除に設定した直後や送信機の電源を切った直後は、十分ご注意ください。
- 到達距離は使用環境などにより変わる場合があります。
- RAMSA送信機に対応していますので、混信などを防ぐためにも、トーンスケルチは設定状態にして使用してください。

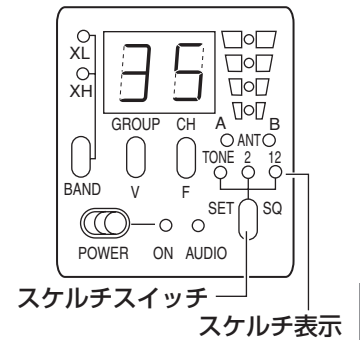
1

設定するチューナーの電源を入れ、スケルチスイッチを1秒以上押します。
(20ページ)

2

スケルチスイッチを押して、スケルチを設定します。

- スケルチスイッチを押すとスケルチ表示のみが点滅し、設定を変更できるようになります。
トーンスケルチ、レベルスケルチ共に解除(消灯)に設定した場合は、スケルチ表示の [TONE]、[2]、[12] が短い点灯/長い消灯の繰り返し点滅になります。
- スケルチスイッチを押すたびに下表のようにスケルチ表示が切り替わります。



スケルチ表示			スケルチの設定	
TONE	2	12	トーンスケルチ	レベルスケルチ
○	○	○	解除	解除※1
○	●	○	解除	2 dB (到達距離：約90 m※2)
○	○	●	解除	12 dB (到達距離：約30 m※2)
●	○	○	設定	解除※1
●	●	○	設定	2 dB (到達距離：約90 m※2)
●	○	●	設定	12 dB (到達距離：約30 m※2)

●：点灯(設定) ○：消灯(解除)

※1 雑音があっても受信を優先する場合や、不要な電波の所在を確認する場合以外は、レベルスケルチを解除しないでください。

※2 送信機の送信出力設定が10 mWのときの到達距離の目安です。2 mW、5 mWに設定しているときの到達距離は、上表の2/3程度になります。

3

設定を終了します。

- すべての設定が終了したら、3秒以上、何も操作しないでください。3秒以上経つと、表示が点滅から点灯になり、設定が完了します。
- 設定が完了したら、送信機の音声を正常に受信できることを確認してください。正常に受信できないときは、37ページからの「故障かな!？」をお読みのうえ、設定を再度確認してください。

使
い
か
た

使
い
か
た

複数の送信機の同時使用について

多チャンネル使用

複数の送信機を同時に使用する際には、同じバンドの同じグループの中で周波数を設定しますが、周囲の環境や、使用する送信機の関係から、同じバンド、同じグループに設定できないときは、バンドをまたがって周波数を使用する多チャンネル使用に設定し、お使い頂くこともできます。

周波数表は、36ページの「多チャンネル使用の周波数表」を確認してください。多チャンネル使用の設定は、以下のようになります。

1 多チャンネル使用のバンドを設定します。

- 設定方法は、20～21ページのバンドの設定と同じです。
バンドスイッチを繰り返し押して、下記のような多チャンネル使用に設定します。

バンド表示	多チャンネル使用の設定
● XL ● XH	XL・XH点灯 (LH) ：XLバンドとXHバンドにまたがる多チャンネルの設定

●：点灯 ○：消灯

2 グループを設定します。

- 設定方法は、20～21ページのグループの設定と同じです。
設定したいグループが表示されるまで、グループスイッチを繰り返し押します。
- 同一空間で別のグループを同時に使用しないでください。

3 チャンネルを設定します。

- 設定方法は、20～21ページのチャンネルの設定と同じです。
設定したいチャンネルが表示されるまで、チャンネルスイッチを繰り返し押します。
- チャンネルの表示は、以下のようになります。
チャンネル1～9 = [1]～[9]
チャンネル10 = [0]
- それぞれの送信機は、すべて違うチャンネルに設定してください。

バンド単独使用時の周波数表での注意事項

- すべての送信機を同じバンド、同じグループにし、それぞれの送信機をグループの中の違うチャンネルに設定してください。ただし、「-」グループ内では、異なるチャンネルにしても同時に複数の送信機を使用することはできません。
- 使用するチャンネルは周波数表 (34～35ページ) を確認してください。
- 同一空間で、別のバンドまたは別のグループを同時に使用しないでください。

7波以上を同時に使用する際の注意事項

- 7台以上の送信機を同時に使用する際は、次の条件下で十分に注意してお使いください。

送信機の送信出力設定	送信機間の距離	送信機と受信機の距離
2 mW / 5 mW	0.5 m以上離す	5 m以上離す
10 mW	1.0 m以上離す	10 m以上離す

チャンネルの使用状況を確認する（スキャン機能）

スケルチの設定に従ってバンドまたはグループの全チャンネルをスキャンし、チャンネルの使用状況を確認できます。

スキャン機能には、「バンドスキャン」と「グループスキャン」の2種類があります。

本機では、チューナーごとにスキャン機能を使用することができます。

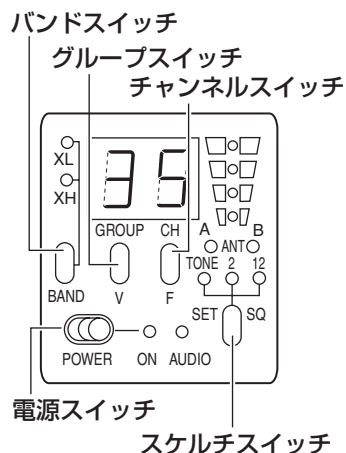
- **バンドスキャン** : 設定されているバンドのグループとチャンネルの使用状況を確認できます。バンドスキャン中は、グループ表示 **[35]** の「.」（ピリオド）が点滅します。
- **グループスキャン** : 設定されているグループのチャンネルの使用状況を確認できます。グループスキャン中は、チャンネル表示 **[35]** の「.」（ピリオド）が点滅します。

!!重要!!

- スイッチは指で操作してください。ボールペンなど先のとがったもので操作すると、スイッチが破れて操作できなくなる場合があります。
- トーンスケルチ、レベルスケルチが共に解除の場合、強制的に受信状態となるためスキャンは停止します。

1 スキャンを実行します。

- バンドスキャンを行う場合は、スキャンを行うチューナーのバンドスイッチを押しながら電源スイッチをONにします。
- グループスキャンを行う場合は、スキャンを行うチューナーのグループスイッチを押しながら電源スイッチをONにします。
- 使用されている周波数でスキャンが停止します。



● スキャン中に可能な操作

- ・ スキャンの停止 : バンドスイッチ、グループスイッチ、チャンネルスイッチ、スケルチスイッチのいずれかのスイッチを押すとスキャンが停止します。

● スキャン停止中に可能な操作

- ・ バンドの変更 : バンドスイッチを押すとバンドを変更できます。(P.21ページ)
- ・ グループの変更 : グループスイッチを押すとグループを変更できます。(P.21ページ)
- ・ 周波数の確認 : チャンネルスイッチを押すと停止中の周波数を確認できます。(P.28ページ)
- ・ 再スキャン : スケルチスイッチを押すと、スキャンが再スタートします。

※スキャン停止中は、受信動作時と同様に電波を受信できます。

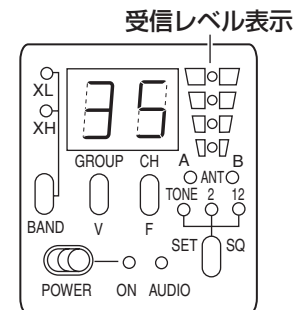
2

スキャンを終了するときは、スキャンを終了するチューナーの電源スイッチをOFFにします。

受信レベル表示について

電波の受信レベルを4ポイントで表示します。少なくとも3ポイントが点灯する範囲で使用してください。

※送信機の電源がOFFのときに受信レベル表示が点灯するときは、周囲環境による外来ノイズが考えられます。その場合は、レベルスケルチを12 dBに設定してください。(P.22~23ページ)



本機の状態を確認する

本機の状態をチューナーごとに確認できます。

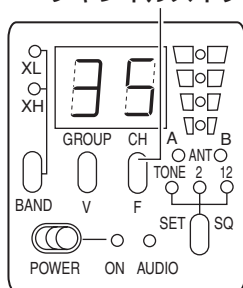
周波数を確認する

設定されているバンド、グループ、チャンネルの周波数を確認できます。

1 設定を確認するチューナーの電源を入れ (P.19ページ)、チャンネルスイッチを押します。

- チャンネルスイッチを押すと、グループ表示、チャンネル表示に、設定されている周波数を1けたごとに表示します。

チャンネルスイッチ



例：「XL11」表示中、チャンネルスイッチを押します。
(周波数=779.125 MHz)

【表示】

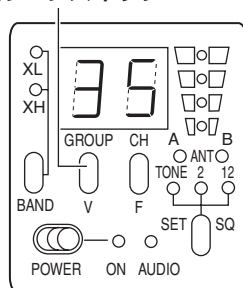
電源電圧を確認する

使用中の電源電圧を確認できます。

1 状態を確認するチューナーの電源を入れ (P.19ページ)、グループスイッチを押します。

- グループスイッチを押すと、使用中の電源電圧を1けたごとに表示します。

グループスイッチ



例：「XL11」表示中、グループスイッチを押します。
(電源電圧=6.4 V)

【表示】

メモ

- 外部電源を使用している場合に、外部の電源電圧が約10.5 Vよりも高い場合は、「VH」と表示します。約10.5 Vよりも低い場合は、実際の電圧よりも3.4 V程度低く表示されます。
- 本機は、送信機の電池残量表示機能には対応していません。

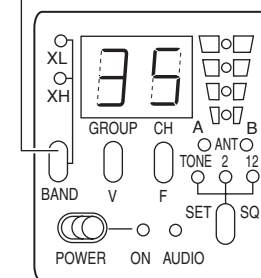
多チャンネル使用時のバンド・グループ・チャンネルを確認する

多チャンネルに設定しているときに、送信機で設定するバンド、グループ、チャンネルを確認することができます。

1 設定を確認するチューナーの電源を入れ (P.19ページ)、バンドスイッチを押します。

- 多チャンネル表示時に使用すると、送信機の周波数の設定を確認することができます。
- バンド単独使用時も同様に動作します。

バンドスイッチ



例：LH15 (XL・XH・15) 表示中、バンドスイッチを押します。
(送信機の周波数設定=XH21)

【表示】

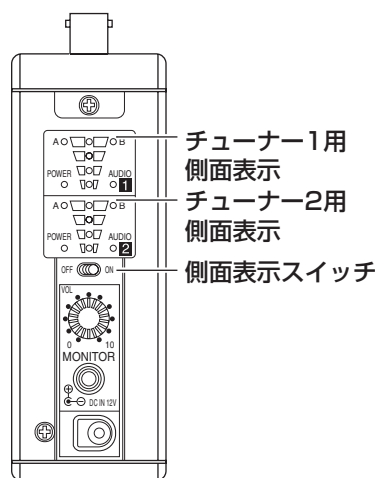
●：点灯 ○：消灯

側面表示の使いかた

- 側面表示スイッチをONにすると、操作パネルの電源表示、音声出力レベル表示、受信レベル表示、受信アンテナ表示をそれぞれのチューナー側面表示で確認できます。

ただし、電源スイッチがOFFになっているチューナーの表示は確認できません。

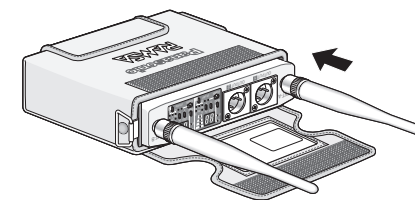
- 乾電池の消耗を抑えるため、側面表示を使用しないときは、側面表示スイッチをOFFにしてください。



本機をショルダーケースに装着する

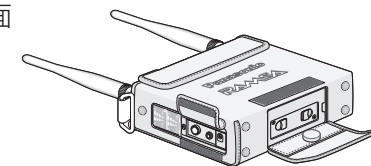
本機を使用するときは、ショルダーケース（付属品）に入れて使用してください。

ショルダーケースの上面を開け、本機を挿入します。



メモ

- 本機をショルダーケースに入れたまま底面を開けると、乾電池の交換ができます。また、側面を開けると、モニター用ボリュームで音声出力の音量を調節できます。
- ショルダーケースは、ベルトをケースフック金具に通し、ベルトフック部で抜け落ちないように正しく取り付けられていることを確認してから使用してください。取り扱い方法や固定方法を誤ると、高所で使用の際に落下の恐れがあり、けがや故障の原因になります。



取り付け

使いかた

モニターを接続する

- ステレオヘッドホンのステレオミニプラグをモニター端子に接続します。
- ステレオヘッドホンからの出力は、以下のようになります。

- **チューナー1の電源スイッチのみON**

ステレオヘッドホンのL側R側両方にチューナー1で受信した音声を出力します。

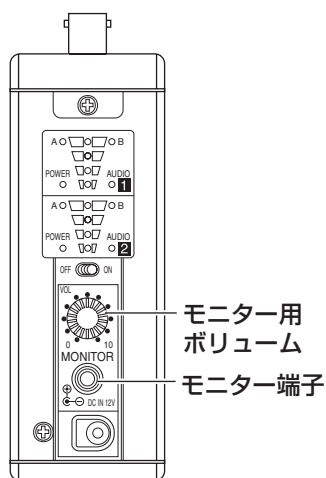
- **チューナー2の電源スイッチのみON**

ステレオヘッドホンのL側R側両方にチューナー2で受信した音声を出力します。

- **チューナー1、2両方の電源スイッチがON**

ステレオヘッドホンのL側にチューナー1、R側にチューナー2で受信した音声を出力します。

- 音声出力の音量はモニター用ボリュームで調節します。



お買い上げ時の設定について

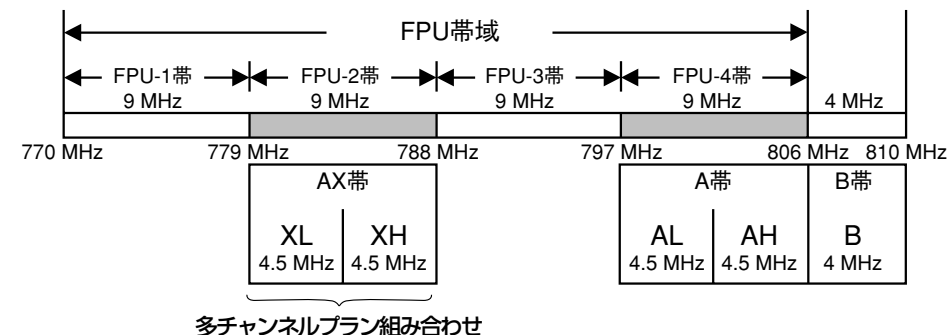
各種設定をお買い上げ時の状態に戻したい場合は、それぞれの操作スイッチを以下に従って設定してください。

なお、設定のしかたはそれぞれの操作の説明のページをお読みください。

項目	お買い上げ時の状態	参照ページ
バンド	XL (チューナー1、2両方)	20~21
グループ	1 (チューナー1、2両方)	20~21
チャンネル	1 (チューナー1、2両方)	20~21
トーンスケルチ	設定 (チューナー1、2両方)	22~23
レベルスケルチ	2 dB (チューナー1、2両方)	22~23
モニター用ボリューム	0 (最小)	32
電源スイッチ	OFF (チューナー1、2両方)	19
側面表示スイッチ	OFF	30

FPU (フィールドピックアップユニット) 帯域とバンドの関係

AX帯とA帯の各バンドは、FPU帯域において下図のように割り当てています。また、B帯は806 MHz~810 MHzの帯域です。



!!重要!!

- モニター端子に接続するプラグはステレオミニプラグ (φ3.5 mm) を使用してください。モノラルタイプを使用すると、モニター回路がショートして正しく動作しません。
- レベルスケルチが解除されていると、電波を何も受信していないときに過大な雑音が出力されます。電波を受信していない状態でレベルスケルチを解除に設定した直後や送信機の電源を切った直後は、十分注意してください。
- このモニター端子は受信の確認用のもので、チューナー間のクロストークが約45 dBあります。
- 片方のチューナーの電源スイッチをON/OFFするとき、モニター端子からの出力が1~2秒ミュートされます。
- 両方のチューナーを同時使用しているときに電源電圧が低くなると、モニター動作が不安定になる場合があります。

周波数表

AX帯 (FPU-2帯) XLバンド

バンド	FPU-2帯 連番	バンド 連番	受信周波数 [MHz]	バンド単独使用時のグループ								
				1	2	3	4	5	6	7	-	
				6波	6波	6波	6波	5波	1波	7波	※注	
XL バンド	1	1	779.125	L11							L71	
	2	2	779.250		L21							L72
	3	3	779.375	L12								
	4	4	779.500		L22							
	5	5	779.625			L31						
	6	6	779.750				L41					
	7	7	779.875					L32				L73
	8	8	780.000						L23			
	9	9	780.125	L13								
	10	10	780.250								L61	
	11	11	780.375				L33					
	12	12	780.500					L42				L74
	13	13	780.625						L51			
	14	14	780.750	L14								
	15	15	780.875							L24		
	16	16	781.000					L43				
	17	17	781.125						L52			
	18	18	781.250							L34		
	19	19	781.375								L53	
	20	20	781.500									L75
	21	21	781.625							L35		
	22	22	781.750								L54	
	23	23	781.875								L26	
	24	24	782.000	L15								
	25	25	782.125									L44
	26	26	782.250								L36	
	27	27	782.375									L45
	28	28	782.500	L16								L76
	29	29	782.625								L55	
	30	30	782.750									L46
	31	31	782.875									L77
	32	32	783.000									L-1
	33	33	783.125									L-2
	34	34	783.250									L-3
	35	35	783.375									L-4
	36	36	783.500									L-5

●周波数表中の記号の読み方

例 $\begin{matrix} L & 2 & 1 \\ \uparrow & \uparrow & \uparrow \\ \text{バンド} & \text{グループ} & \text{チャンネル} \end{matrix}$

LはXLを表します。
 2はグループを表します。
 1はチャンネルを表します。
 「-」は「-」グループを表します。

- 「1」～「7」の同一グループの各チャンネルは同時に使用することができます。
- 「-」グループの各チャンネルは、同時に使用することはできません。
 「-」グループは、必ず1つのチャンネルを設定してください。
 (※注：XLバンドは6波)

AX帯 (FPU-2帯) XHバンド

バンド	FPU-2帯 連番	バンド 連番	受信周波数 [MHz]	バンド単独使用時のグループ								
				1	2	3	4	5	6	7	-	
				6波	6波	6波	6波	5波	1波	7波	※注	
XH バンド	37	1	783.625	H11								H71
	38	2	783.750		H21							
	39	3	783.875	H12								H72
	40	4	784.000			H22						
	41	5	784.125				H31					
	42	6	784.250					H41				
	43	7	784.375						H32			H73
	44	8	784.500							H23		
	45	9	784.625	H13								
	46	10	784.750									H61
	47	11	784.875							H33		
	48	12	785.000								H42	
	49	13	785.125									H51
	50	14	785.250	H14								
	51	15	785.375								H24	
	52	16	785.500									H43
	53	17	785.625									H52
	54	18	785.750									H34
	55	19	785.875									H53
	56	20	786.000									H25
	57	21	786.125									
	58	22	786.250									H35
	59	23	786.375									H54
	60	24	786.500	H15								
	61	25	786.625									H44
	62	26	786.750									H36
	63	27	786.875									H45
	64	28	787.000	H16								
	65	29	787.125									H55
	66	30	787.250									H46
	67	31	787.375									H77
	68	32	787.500									H-1
	69	33	787.625									H-2
	70	34	787.750									H-3
	71	35	787.875									H-4

●周波数表中の記号の読み方

例 $\begin{matrix} H & 2 & 1 \\ \uparrow & \uparrow & \uparrow \\ \text{バンド} & \text{グループ} & \text{チャンネル} \end{matrix}$

HはXHを表します。
 2はグループを表します。
 1はチャンネルを表します。
 「-」は「-」グループを表します。

- 「1」～「7」の同一グループの各チャンネルは同時に使用することができます。
- 「-」グループの各チャンネルは、同時に使用することはできません。
 「-」グループは、必ず1つのチャンネルを設定してください。
 (※注：XHバンドは5波)

多チャンネル使用の周波数表

バンド	FPU-2帯 連番	バンド 連番	受信周波数 [MHz]	送信機の 周波数設定	多チャンネル使用時のグループ			
					1 XL+XH 7波	2 XL+XH 7波	3 XL+XH 10波	4 XL+XH 10波
下バンド	1	1	779.125	L11	LH11			
	2	2	779.250	L21		LH31		
	3	3	779.375	L12	LH12			
	4	4	779.500	L22		LH21	LH41	
	5	5	779.625	L31				
	6	6	779.750	L41				
	7	7	779.875	L32		LH22		
	8	8	780.000	L23			LH32	
	9	9	780.125	L13				
	10	10	780.250	L61			LH42	
	11	11	780.375	L33				
	12	12	780.500	L42		LH33		
	13	13	780.625	L51				
	14	14	780.750	L14			LH43	
	15	15	780.875	L24	LH13			
	16	16	781.000	L43				
	17	17	781.125	L52				
	18	18	781.250	L34				
	19	19	781.375	L53				
	20	20	781.500	L25		LH34		
	21	21	781.625	L35				
	22	22	781.750	L54			LH44	
	23	23	781.875	L26	LH14	LH35		
	24	24	782.000	L15				
	25	25	782.125	L44			LH45	
	26	26	782.250	L36				
	27	27	782.375	L45	LH23			
	28	28	782.500	L16				
	29	29	782.625	L55				
	30	30	782.750	L46				
	31	31	782.875	L-1				
	32	32	783.000	L-2				
	33	33	783.125	L-3				
	34	34	783.250	L-4				
	35	35	783.375	L-5				
	36	36	783.500	L-6				
上バンド	37	1	783.625	H11				
	38	2	783.750	H21	LH15			
	39	3	783.875	H12				
	40	4	784.000	H22		LH36		
	41	5	784.125	H31		LH24		
	42	6	784.250	H41			LH46	
	43	7	784.375	H32				
	44	8	784.500	H23				
	45	9	784.625	H13				
	46	10	784.750	H61				
	47	11	784.875	H33				
	48	12	785.000	H42				
	49	13	785.125	H51				
	50	14	785.250	H14				
	51	15	785.375	H24				
	52	16	785.500	H43				
	53	17	785.625	H52		LH37		
	54	18	785.750	H34			LH47	
	55	19	785.875	H53				
	56	20	786.000	H25				
	57	21	786.125	H35	LH16			
	58	22	786.250	H54				
	59	23	786.375	H26				
	60	24	786.500	H15		LH25		
	61	25	786.625	H44				
	62	26	786.750	H36			LH38	
	63	27	786.875	H45				
	64	28	787.000	H16			LH48	
	65	29	787.125	H55				
	66	30	787.250	H46	LH17			
	67	31	787.375	H-1			LH39	
	68	32	787.500	H-2		LH26		
	69	33	787.625	H-3		LH30	LH49	
	70	34	787.750	H-4		LH27		
	71	35	787.875	H-5			LH40	

●周波数表中の記号の読み方

例1 $\underline{L} \quad \underline{2} \quad \underline{1}$

- チャンネルを表します。
- グループを表します。「-」は「-」グループを表します。
- バンドを表します。LはXL、HはXHを表します。

例2 $\underline{LH} \quad \underline{4} \quad \underline{0}$

- チャンネルを表します。0は10チャンネル目に相当します。
- グループを表します。
- バンドを表します。LHはXL+XHを表します。

●本機が多チャンネル使用時の周波数は、据置型ワイヤレス受信機WX-R822の周波数表とは内容が異なりますので、注意してください。

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

これらの処置をしても直らないときやわからないとき、この表以外の症状のときはまたは工事に関係する内容のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

症状	原因・対策	参照ページ
電源が入らない (乾電池でご使用のとき)	●乾電池は入っていますか? →乾電池を入れてください。	16~17
	●電源スイッチはONになっていますか? →電源スイッチをONにしてください。	19
	●電池ホルダーが外れていませんか? →電池ホルダーを再度入れ直してみてください。	16~17
	●乾電池が消耗していませんか? →新しい乾電池と交換してください。	-
	●乾電池の+と-の向きが間違っていないですか? →正しい向きに乾電池を入れてください。	17
電源が入らない (外部電源端子で ご使用のとき)	●外部電源端子に電源は接続されていますか? →DC12V電源を接続してください。	18
	●外部電源端子に供給されている電圧は正しいですか? →電源電圧を確認してください。	18
	●電源スイッチはONになっていますか? →電源スイッチをONにしてください。	19
	●電源プラグは、正しいものを使用していますか? →正しいプラグを使用してください。	18
	●外部電源の電流容量は2A以上ありますか? →2A以上の電流容量の電源で使用してください。	18

故障かな!?(つづき)

症状	原因・対策	参照ページ
受信がまったくできない(音声が出力されない、受信レベル表示が反応しない)	<ul style="list-style-type: none"> ●送信機の電源(乾電池)は入っていますか? →送信機に乾電池を入れ送信状態にしてください。 ●送信機が送信する周波数と受信機の受信する周波数の設定は合っていますか? →バンド、グループ、チャンネルの設定を送信機と同じにしてください。多チャンネル使用の場合は、周波数表を確認してください。 	送信機の取扱説明書 20~21、36
時々受信できなくなる、または雑音が出力される	<ul style="list-style-type: none"> ●近くに雑音発生源となる機器がありませんか? →本機から遠ざけてください。 	10
混信する	<ul style="list-style-type: none"> ●送信機の送信周波数が重複していませんか? →送信機はすべて異なる周波数(チャンネル)に設定してください。 ●複数のグループを同時に使用していませんか? →同時に使用する送信機のグループは、1つにしてください。 ●複数の送信機を近づけて使用していませんか? →距離を離して使用してください。 ●送信機を受信機のアンテナに近づけて使用していませんか? →距離を離して使用してください。 ●送信機の送信出力設定が「10 mW」になっていませんか? →「2 mW」または「5 mW」に切り替えてください。 	24~25、送信機の取扱説明書 24~25、送信機の取扱説明書 10 10 送信機の取扱説明書

症状	原因・対策	参照ページ
混信する	<ul style="list-style-type: none"> ●近くで別のワイヤレスシステムを使用していると、混信する場合があります。 →別のワイヤレスシステムの設定を確認し、使用周波数が重複しないように本システムのグループまたはチャンネルの設定を変更してください。 ●近くに高周波を使う機器や雑音発生源があると、混信する場合があります。 →送信機と受信機のアンテナの距離を短くして使用してください。 	20~21、送信機の取扱説明書 10
雑音出力が止まらない	<ul style="list-style-type: none"> ●トーンスケルチ、レベルスケルチが共に解除の設定になっていませんか?またはレベルスケルチが「2」に設定されていませんか? →設定を確認してください。 	22~23
音切れする	<ul style="list-style-type: none"> ●送信機の送信出力設定が「2 mW」または「5 mW」になっていませんか? →「10 mW」に切り替えてください。 	送信機の取扱説明書
設定変更モードでチャンネルが切り替わらない	<ul style="list-style-type: none"> ●「6」グループに設定されていませんか? →各バンドの「6」グループは1チャンネルのみです(変更できるチャンネルは、設定されたバンドとグループ内のみ)。他の周波数に変更するには先にグループを変更してください。 	20~21、34~35
スキャン停止中に再スキャンを実行しても一時停止状態になる	<ul style="list-style-type: none"> ●トーンスケルチ、レベルスケルチが共に解除の設定になっていませんか? →スケルチが解除されていると、正しくスキャンを実行しても、周波数が変わるたびに一時停止します。スケルチの設定を変更してください。 	22~23

症状	原因・対策	参照ページ
設定変更モードでスケルチを変更すると、音声途切れることがある	<ul style="list-style-type: none"> ● 過大な雑音が発生するのを防ぐため、トーンスケルチ・レベルスケルチを共に解除に変更した場合のみ、変更した時点から3秒間本機は音声出力をミュートします。 ➔ 3秒経過後は音声を出力します。また、3秒経過前にほかの設定の変更に移ったり、設定変更モードから戻ると、音声を出力するようになります。 	22~23
表示が点滅し、それ以上操作ができない	<ul style="list-style-type: none"> ● 内部のPLL回路に異常がある場合にグループ、チャンネルの表示が点滅し操作ができなくなります。 ➔ 再度、電源を入れ直してください。それでも直らない場合はお買い上げの販売店に修理を依頼してください。 	-
グループ、チャンネル表示部に「Er」が表示される	<ul style="list-style-type: none"> ● 内部のメモリーに異常がある場合に「Er」が点滅表示されます。 ➔ 再度、電源を入れ直してください。それでも直らない場合はお買い上げの販売店に修理を依頼してください。 	-
両方のチューナーの側面表示が表示されない	<ul style="list-style-type: none"> ● 側面表示スイッチはONになっていますか? ➔ 側面表示スイッチをONにしてください。 	30

受信周波数	779.125 MHz~787.875 MHz 71波中の2波 (周波数表による)
中間周波数	248.1 MHz、10.7 MHz
使用電池	単3形アルカリ乾電池LR6G 1.5 V×4個 単3形オキシライド乾電池ZR6Y 1.5 V×4個 単3形マンガン乾電池R6PNB 1.5 V×4個
電池寿命	約7時間 : 両チューナー同時使用時 約14時間 : 片チューナー単独使用時 (松下電器産業株式会社製単3形アルカリ乾電池LR6G、モニター端子にステレオヘッドホンを接続していない状態で、常温25℃連続使用時)
電源表示	電池電圧 約4.3 V以上 : 緑色点灯 電池電圧 約4.3 V~4.1 V : 赤色点灯 電池電圧 約4.1 V未満 : 消灯
外部電源端子入力	電源電圧 12.0 V (10.0 V~18.0 V) 消費電流 180 mA (両チューナー同時使用時) 100 mA (片チューナー単独使用時)
受信方式	スペースダイバシティ受信 ダブルスーパーヘテロダイン方式
受信感度(S/N)	40 dB以上 (5 dBμV入力、±12.5 kHz FM)
受信帯域幅	100 kHz
選択度	60 dB以上 (±250 kHz離調)
レベルスケルチ	解除/2 dBμV/12 dBμVの切替可能
トーンスケルチ	32.927 kHz 設定/解除の切替可能
アンテナ形式	1/2λフレキシブルアンテナ
アンテナコネクター	BNCコネクター
基準出力レベル	-60 dB (600 Ω終端、±4 kHz FM時) (0 dB=0.775 Vrms) (-58 dB : 600 Ω終端、±5 kHz FM時)
信号対雑音比	60 dB以上 (36 dBμV入力、±4 kHz FM、Aカーブ) (62 dB以上 : 36 dBμV入力、±5 kHz FM、Aカーブ)
ダイナミックレンジ	100 dB以上 (36 dBμV入力、±40 kHz FM、Aカーブ)

ディエンファシス	50 μ s
音声信号処理	1 : 2 デシリニア伸長
周波数特性	40 Hz ~ 15 kHz (± 3 dB)
ひずみ率	1.0 %以下 (± 12.5 kHz FM)
出力インピーダンス	200 Ω 、平衡
音声出力コネクタ	XLR-3-32キャノン相当 (1番GND (アース)、2番ホット、3番コールド)
受信レベル表示	約0 dB μ V / 10 dB μ V / 20 dB μ V / 30 dB μ Vの4ポイント表示
音声出力レベル表示	最大出力レベル (最大変調出力) に対して 0 dB ~ -6 dB で赤色点灯 -6 dB ~ -36 dB で緑色点灯 -36 dB 未満で消灯 (常温25 $^{\circ}$ C 使用時)
モニター出力レベル	-18 dBV (8 Ω 終端、 ± 5 kHz FM時)
モニターひずみ率	2.0 %以下 (8 Ω 終端、 ± 5 kHz FM時)
モニタークロストーク	45 dB (8 Ω 終端、 ± 5 kHz FM時)
モニター端子	ステレオミニジャック ($\phi 3.5$ mm)
使用温度範囲	0 $^{\circ}$ C ~ +40 $^{\circ}$ C
寸法	幅140 mm 高さ105 mm 奥行き39 mm (アンテナ含まず)
質量	約800 g (乾電池・アンテナ含む)
仕上げ	インディゴブラック色塗装

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

■保証書 (別添付)

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

■補修用性能部品の保有期間

当社は、このワイヤレス受信機の補修用性能部品を、製造打ち切り後7年保有しています。

注) 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

37~40ページの表に従ってご確認のあと、直らないときは、電源を切ってから、お買い上げの販売店へご連絡ください。

- 保証期間中は
保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。
- 保証期間を過ぎているときは
修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。
修理料金の仕組みをご参照のうえご相談ください。

保証とアフターサービス（つづき）

●修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご連絡いただきたい内容	
製品名	ワイヤレス受信機
品番	WX-RJX800A
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）

お買い上げ日	年 月 日	品番	WX-RJX800A
販売店名	電話（ ） -		

松下電器産業株式会社

ブロードメディア本部

〒223-8639 横浜市港北区綱島東四丁目3番1号
電話 フリーダイヤル 0120-878-410